

総合的なデザイン提案に導くための技法・編集・構成力の深化

美術教育・千代田憲子

1. 授業の概要

本授業は、造形芸術コース専門教育科目の選択科目 A として 2・3 年次前期に実施している。2 年次より彫刻・工芸・絵画・デザインの 4 専攻に分かれ、卒業研究へと繋がる。今期の受講生数はデザイン専攻の 2 年生 3 名と 3 年生 5 名の計 8 名である。

コース発足当初から異学年合同の授業形態をとっており、その効果は既に確認している。前期開講の本授業では、デザイン課題研究 I(2 年次)で、表現技法の深化に取り組み、デザイン課題研究 III(3 年次)で、編集力と構成力の深化をはかっている。後期は、これまでも個人(3 年次は同学年)で取り組む課題と平行してグループワークによるプロジェクトを設定し、学外発表も実施している。

以下、デザイン課題研究 I を I、デザイン課題研究 III を III と表記する。

〈授業の目的〉

I 技法とアイデア展開の開発を主としたトレーニングに取り組み、柔軟な発想と多様な表現を体得する。

III テーマに沿って、企画・デザインする。社会や生活との関連性の上でデザインを捉える。

〈到達目標〉

I (1) 様々なトレーニングを通してデザイン制作のプロセスと考え方を把握する。

(2) テキスタイル造形を通して材質感に関するペーパープランと実在の関係を把握する。

(3) 複数の課題を平行して制作することにより、計画性を身につける。

III (1) テーマに沿ったデザインサーベイを行い、深い問題意識とオリジナリティの高いコンセプトを構築する。

(2) コンセプトを反映した制作を行い、プレゼンテーション能力を高める。

(3) 協同によるデザインのプロセスを培う。また、デザイン提案後の検証につとめる。

〈関連するディプロマ・ポリシー〉

I 造形芸術全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。(知識・理解)

I・III 地域社会の造形芸術分野に関する文化振興に貢献するため、高度な技能と豊かな表現能力を身につけている。(技能・表現)

III 造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして、主体的・自律的な学習ができる。(関心・意欲)

〈授業の方法など〉

I 各自のデザイン的思考力や展開力を高め、計画性を得るために、課題群Aと課題群Bを一部平行して取り組む。

III 深い問題意識を持って主体的に取り組む。有効でスムーズな活動を目指す。内容に応じて制作期間が一部平行する可能性もありうる。

第1回 ガイダンス—テーマの方向性を考えて、計画をたてる。

第2回—第7回 I 課題群A(50の発想・タイポグラフィ・イラストマップ・レンダリング) III 課題A(自由課題・コンペ作品) テーマに基づいたアイデアを展開して制作する。テーマに基づいた資料収集を行い、コンセプトを立てる。アイデアを展開して制作する。中間発表により途中経過のチェックを受ける。

第8回 合評

第9回—第14回 I 課題群B(テキスタイル造形)織物の基礎を修得する。III 課題B(パワーポイントによる編集デザイン) テーマに基づいた資料収集を行い、コンセプトを立てる。アイデアを展開して制作し、プレゼンテーションを行う。中間発表により途中経過のチェックを受ける。各自の得意分野を活かしたデザイン提案の方向を探究する。

第15回 合評

〈今年度意識した取り組み〉

I・III 各自の得意分野を探究するきっかけとし

て、興味あるデザインテーマに関する資料収集のファイリングによる夏期課題を設定した。また、デザイン関連の情報(見本市など)や現場(インターンシップなど)、コンペへの出品などを多く体験するように勧め、積極的かつ自主的な受講態度を求めている。

同時開講なので、異学年が日々交流を深めながらの学習で、合評も合同である。時間外制作も含めて、後期のグループワークによるプロジェクトの際に、スムーズなコミュニケーションが行える準備となる。

III 課題 B は、役割分担やリーダーシップの養成もはかる意図で、昨年度は協同での制作を進めたが、同時期に開講するビジュアルデザイン II のチーム作業と重なって負担が大きいという声があったために、今年度は個人の課題とした。なお、就職活動のために、夏期休業中にポートフォリオ(作品集)の充足を行うことも勧めている。

2. アンケート結果(自由表記)

I ①課題群Aに対する感想

- ・イマジネーションの単調さに気づいた。
- ・両立の難しさや時間配分の難しさがわかった。

②課題群Bに対する感想

- ・繊細さと丁寧さが必要な作業に疲労感もあったが、その分達成感が大きかった。
- ・糸を媒体としたデザインが楽しくもあり、難しさを痛感した。
- ・タイアップや踏み順で異なる模様ができて面白かった。

III ③課題Aに対する感想

- ・大変だが受賞して嬉しく、又頑張ろうと思えた。
- ・課題選びからモチベーションを試され、気を抜かずに取り組めた。
- ・自分のやりたいことに直接繋がってモチベーションも高かった。
- ・自由度があって面白かったが、手抜きになった。

④課題Bに対する感想

- ・どこにこだわるか、魅せるか考えすぎてうまくいかなかった。
- ・何を相手に伝えたいかを明確にする大切さを学んだ。
- ・まとめる難しさと伝える難しさを知った。
- ・熟考が足りなかった。
- ・余裕をもってやるべきだった。

⑤ この授業の良かったところ

- I ・様々な良い経験は、未消化もあるが頑張れた。
- ・授業環境が快適。
- ・課題の区切りがはっきりしている。

- ・パソコンのスキルが上がった。

III ・2年次の時を考えながら作品が見られる。

- ・コンペの多さに驚き、又出してみようと思えた。
- ・自由度が高かった。
- ・進度や締め切りがそれぞれで、計画性の大切さと計画力を得た。

⑥ この授業の改善点や取り組みたい課題

I ・特になし。

- ・今のような感じで良い。

III ・改善すべきは私自身。

- ・全員で頑張ろう的な空気を持ち、自分達の態度。

⑦ この授業でどのようなことを得ましたか

I ・複数のツールを利用することで互いのツールの利点と欠点を知った。

- ・デザインの根本的な考え方と捉え方
- ・印刷工程の大切さ

III ・自分で良く考え、その時間に出来ることをやることの重要性。

- ・仲が良いからこそ、もっと出来ることを見つけなければならない。

- ・受け手への説明とプレゼン能力の向上。
- ・計画を立て、自分が奮い立つしかないこと。
- ・もっと真面目に頑張ること。

⑧授業後のアップ率:およその目安

技術 10-70%・考え方 20-60%・感性 30-60%アップしていたとの回答があり、平均するとそれぞれ 43%・45%・36%となる。

⑨モチベーション:およその目安

中盤から後半にかけて上昇した者は 3 名、下降 3 名、中盤上昇 1 名、下降 1 名であり、平均するとそれぞれ 57%・57%・65%となる。

3. 総括

〈アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点〉

モチベーションは個々の差が大きく、平均すると高いとはいえず、残念であるが、後半少し伸びていることが救いである。

3 年次は随所に自己反省が多く、遅刻や合評時に課題が間に合わないなど、専門科目の実技として、以前は考えられなかった問題が顕在化している。本質的な内容と離れた部分で新たな対応を考えることが今後の課題である。

〈授業の目的、到達目標、関連 DP を踏まえた総括〉

少人数で主体的に取り組む実技課題の授業として、ある程度の成果は果たしているが、内容の深化はまだ不十分な部分も多い。後期のデザイン課題研究 II・IV のグループ活動において、人数の多さと仲の良さが活力となり、リーダーシップも発揮しており、前期の反省が活かされた一面と捉えている。